



Subaru

ニュース No.319

'11. 08. 30

男声合唱団

## 檀美知生さん村嶋由紀子さん

### 陸前高田市へ「心のかけはし」旅の報告

□ 「絵手紙コンサート」の成功の一環として、陸前高田市の教育委員会と連絡がとれて、去る22日（月）に、檀さんと村嶋由紀子さん夫妻が、会場で作った「メッセージカードつきの大きな絵手紙」と『こころのかけはし』100冊に加え、義援金（コンサート義援金に檀夫妻が追加して20万円）を携えて、〈未来を担う陸前高田の小中学生の子どもたちに〉届けてもらい、心のかけはしをかけるべく、陸前高田市教育委員会を訪問されました。檀さん自身、いろいろ行事が重なっていて、大変な強行日程で行かれましたが、アポが取れた時間に先立つ、中里前陸前高田市長の葬儀の時間にもぎりぎり間に合い、教育委員会では「絵手紙コンサート IN 陸前高田」の交渉、あわせて現地調査もしていただきました。誠にご苦労様でした。ありがとうございました。その報告を戴きましたので以下に掲載します。

#### 絵手紙コンサート参加の皆様へ

「絵手紙コンサート」での善意と成果を、陸前高田市のどなたか「顔の見える人（所）」に直接手渡しができるよう、コンサート翌日から動き出しました。

永井喜代子さんと相談の上、檀・村嶋の2人が手渡し日を22日、送付相手は〈未来を担う陸前高田の小中学生の子どもたち〉に定めました。

日にちがない中で、インターネットで陸前高田の教育委員会のアドレスを探し、下記メールを出しました。

しかし大被災地の混乱が予測されるようになかなか返事がない状況が続きましたので、永井さんからの手紙（こちらで代筆）と「心のかけはし」の本を戸羽市長と教育委員会あてに送付してアピールを重ねました。

19日になり、やっと教育委員会担当者から「22日の夕方、学校教育課長が会ってくださる」とのアポを得ることができました。

ところがその途端、前陸前高田市長の中里長門氏のご逝去、その葬儀が22日の11時からとわかり、行くのを迷う事態となりました。

しかしそれなら思い切って葬儀にも列席しようと決意し、22日8時前に伊丹を発ち、9時過ぎ仙台到着。レンタカーを借り、ご葬儀に間に合えばと、仙台から急ぎ車を飛ばしました。

陸前高田〈延命寺〉には、もう終わっているだろと半ばあきらめながらの到着でした。すると狭い山道の片側に多くの車がとめられ、まだ参列者がたくさんおられる様子で、民主団体などからの花輪も多くかざられ、読経の最中でした。2人して香典の受付をし、焼香（多分参列者最後の）もできました。

喪主の長男の方のごあいさつもお聞きすることができ、たまたま戸羽市長を発見し、兵庫から来たことを伝えることもできました。

(1/5)

それからただちに移動、プレハブでできたく仮市役所庁舎を探し当て訪ねました。(写真1)この仮設の建物に市のほとんどの行政機能を集中させている様子でした。

その一角の一室に20人程のメンバーだけのく教育委員会室で、たくさんの人材の損失がうかがわれるようでした。その中で、もくもくと仕事をされている様子に、やはり予定どおり「教育課長には5時に会う」ことにし、その間の時間に「小中学校を訪問したい」との申し出をしましたが、外から見るだけを許可されました。



写真1

現在の小中学校の所在をマジックで書きいれた簡単な地図だけいただき、市内に車を走らせました。現在のこどもたちの状況を知りたい、避難、仮設の様子を見たい、(11月の公演が可能であればその講堂・体育館を観ることも視野に入れて)5-6カ所の小中学校を見て回りました。現在の小中学校はすべて高台にあるものだけで、その校庭にはぎっつりと仮設住宅が建てられていました。(写真2)7月初めの訪問ではまったく被災者に会えなかったことが心残りだったので、今回こそ人に会いたいと願いながら、外からは人っ子一人見ることができないことに苛立ちを覚えました。そこで息をひそめて生きている人たちの孤独を思うドアをこじ開けていきたい気持ちになりました。



写真2



写真3

また何より胸に堪えたのは、旧市街中心地だった海辺の被災地が、前回とほとんど姿をえていない無残な様子だったことでした。(写真3)

はるか彼方に見える「一本松」、見渡す限りの荒野、ガレキの山…、前回と違うのはそのガレキの山の高さが高くなっていたことぐらいでした。



特に海辺の「気仙沼中学校」の津波にぶちぬかれ、傾いたままの校舎の姿(写真4)には、そこにいたであろう子どもたちのことを考えると胸のえぐられる気持ちになりました。

それから若い人たちが中心に頑張っていたボランティアセンターにも立ち寄り、唯一ほっとした気分にな

写真4

りました。(写真5)

被災地の様子に疲れ果てた気持ちにもなりましたが、5時になり、教育委員会に戻り菅野学校教育課長と佐藤補佐(係長)と会うことになりました。お会いして、さっそく、目録と以下の支援のものをお渡しました。

1) 絵手紙コンサート参加者約300人のメッセージを永井さんが美しくはりつけた大絵手紙(写真6)

永井さんの描かれた4枚のひまわりの絵手紙



写真 5

2) 永井喜代子著「心のかけはし」本100冊(これは事前に教育委員会に送付済み)

3) 義援金20万円

絵手紙を広げ見せると、「きれいですね！」と感嘆し、喜ばれました。プレハブの教育委員会の事務所にも他から送られてきた寄せ書きがいくつか壁に貼られていたが、

写真 6



それらとは芸術的にまったく違う立派なものでした。子どもたちの励ましのために「小中学校に貼って欲しい」との要望に快諾を得ることができました。

「心のかけはし」の本も各学校にどのように配分するか考えますとのこと、また義援金は学校復興基金に入れさせてもらうということでした。

阪神大震災の経験から、ただ送付しても手間などで放っておかれる場合もあることも知っており、20万の義援金などを渡すのに10万かけていくのは不合理といえばそうですが、こちらの誠意を示して受け取っていただきたいことを本当によかったです。

向こうの人は「確かに受け取ましたが、これでいいんですか?」とのこと。どこかの学校に掲示されたら、地方

紙を呼んで記事にしてもらいましょうかとの提案をしていただきました。(こちらでも動いて、絵手紙コンサートを掲載した毎日新聞にもこの訪問の記事にしてもらうよう30日(火)に取材に来てもらいます。)

また、「絵手紙コンサートIN陸前高田」の企画案も手渡してきました。

これについては詳細また別途報告しますが、町ぐるみのコンサートだと初めは及び腰でしたが、ある学校で生徒たちとそこの仮設におられる方を対象にというと、

「自分も第一中学校の仮設から通っているし、そのコミュニティもある」とイメージが少しできたようで、受け入れの学校を探す方向でと、話は終えることができました。

何か先に、被災者の皆さんとの交流が見えてきたことに希望の灯を見る気持ちでその地を離れました。

その後、津波被害はなかったが、観光客がだれも来なくて困っているという松島に移動し宿泊しました。(やはり寂れている感じはありました。)

1日で約400Kの運転と被災地を見るのはそれだけでも心が疲れるので、倍の疲れを感じましたが、それでも「皆さんの善意をお届けする」という任務を無事果たせた喜びの気持ちの方が大きかったです。

そして現地をこの目で見ることができたこと、遅々として進まぬ復興への怒り、被災者の苦しみを感じることができたことは何より大きな成果だと思える旅でした。

翌日は東京にもどり村上源一郎とGEN室内管弦楽団の演奏会をサントリーホールで檀上さわえさんらとともに鑑賞できることも、たいへん勉強になりました。この感想も後日にします。

旅を終えて深く思うことは、「支援はこれが始まりでなければならない」との気持ちでした。あそこにたたずみ自分たちの力の余りに小さいこと、それだけにこちらの人々との連帯の輪を広げる必要を急務と考えます。絵手紙に参加された皆さん、支援の心のある皆さん、折に触れた「義援金」の引き続きの協力をしようではありませんか！

檀美知生の8月の最終は、28日無言館で「無言館」を歌つてることを成功させ、精一杯の努力で終えました。今日からは「10月10日リサイタル」に一直線に向かっていかねばと思っています。村嶋由紀子も母の看病を精一杯しながらの頑張りです。どうかこうした活動の延長戦上でのコンサートですので、できる限りたくさんの方にお越しいただき、そこでも支援への心を広げたいと思っています。

上記の活動報告をもって、皆様のご協力をあおぎたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます！！

2011年8月30日

檀美知生 村嶋由紀子

最初陸前高田に送付したメッセージ

陸前高田市教育委員会 三浦指導主事 殿

生涯学習・図書館 ご担当殿

この度の東日本大震災での貴市の甚大なる被害に対し、心よりお見舞い申し上げます。

突然のメールで失礼いたします。私たちは兵庫県在住の檀美知生と村嶋由紀子という者です。

先週8月14日、兵庫県西宮市にて「絵手紙コンサート」という公演を企画・実施しました。

このコンサートは、絵手紙を通して重度の心身障害を持つ青年と交流を深め、その成長を見つめた『心のかけはし』(永井喜代子著)という本の出版を記念し、7つの合唱団・朗読の会・障害者団体により愛と平和の心の絆を深める目的で企画されたものでした。

そして3月11日の大震災勃発を機に、阪神淡路大震災で同じ痛みを経験した私たちといたしましては、この心の絆を東日本の皆様へお届けする決意を加えて臨むに至りました。

コンサート当日、参加者全員の手による励ましの「一言メッセージ」の入った「大きな絵手紙」が完成いたしました。さらには神戸の復興の象徴であったひまわりの花に託した永井さんの力作の大きな絵手紙も仕上りました。

つきましてはそれら絵手紙を、『心のかけはし』100冊と共に、陸前高田市に寄贈させていただきたいと思っています。なお些少ではございますが、その折の収益金と義援カンパも寄付させていただきたいと思っています。

本は美しい絵手紙の絵入りですので、中学生・小学生も手に取って見ていただけるものです。できますなら、陸前高田のどこかの学校に「大きな絵手紙」共々、贈らせていただきたく思っています。

実は私たち二人は、そちらの被災後、関西(大阪)が貴市にボランティアでのつながりが強いとお聞きし、7月上旬にそちらに足を運ばせていただきました。すべてが流された浜の地区を歩き、はるか向こうに「一本松」が見渡せる光景を目の当たりにし、今でも忘れることができません。そしてきれいに仕分けられたガレキの山の数々を見て、いかなるご苦難とご苦労があったかとご推察申し上げました。

心残りは直接町のどなたかともお会いできなかったことです。つきましては再び、そちらを二人で訪れ、上記の品を持参したいと思っております。

恐縮には思いますが、来週、8月22日(月)の午後に持参させていただきたいと思っています。お手間を取らせることとは思いますが、どなたか対応していただけますならこんなに嬉しいことはありません。

なお、私たちのことはきっとよくわからないと思いますので、著名な詩人で大学の名誉教授、文化ボランティアに活躍されている片岡輝氏に紹介状を書いていただきましたので、添付させていただきます。また、コンサートの実際の写真も添付いたしますので、どうかご覧ください。

なお、戸羽市長様の奥様を亡くされてもなお町のためにご奮闘されていること、またその他の市会議員の皆さん、行政職員の皆さんのご尽力もよく新聞等で目にしており、心からの応援の気持ちで一杯です。

片岡氏の紹介文にもありますように、とりわけ教育に携われている先生方の「今」果たす役割の大きさに最大の支援の気持ちです。(紙面の都合で以下掲載を略させて頂きます)。

合唱団TERRA代表・指揮者 檀 美知生

ディレクター 村嶋由紀子